



## I 水土里ネットの概要

- ・水土里ネット名： しのつ中央
- ・理事長名： 南 部 重 雄
- ・役職員数： 役 員 18名、職 員 21名
- ・住 所： 石狩郡当別町字金沢1363番地21
- ・連絡先：電 話 0133-23-2359  
F A X 0133-23-2584  
e-mail chuou@rapid.ocn.ne.jp  
U R L http://www.shinotsu-chuoh.jp
- ・受益面積： 7,405.57ha
- ・組合員数： 691名
- ・水土里ネット設立の経緯：
  - 昭和26年 篠津泥炭地開発事業がスタート
  - 昭和31年 篠津運河水系土地改良区準備事務局が発足
  - 昭和32年 篠津中央土地改良区が設立

## II 地域の特徴

～地理的概要、産業、経済、歴史、景観、自然環境、伝統文化など～

当地域は、札幌市から北東へ約25kmに位置し、石狩川下流地域右岸に拓けた江別市、当別町、月形町、新篠津村にまたがる水田主体の農業地域である。

昭和26年に、食料増産に向けた国家的プロジェクト「篠津地域泥炭地開発事業」がスタート。世紀の大事業と言われたこの事業は、農業土木技術の粋を結集し、200億円余の巨費を投じて昭和45年に完成を見、北海道を代表する米どころが誕生した。当時は、石狩川を水源に頭首工より篠津運河に導水し、5ヶ所の国営揚水機場を中心に地域全体へ水を供給し、国営、道営等を合わせての92ヶ所におよぶ揚水機場を土地改良区が管理していた。

その後、施設の老朽化等により、昭和60年より近代化用水に対応すべく国営かんがい排水事業に取り組んだ。幹線水路はすべて管水路とし、揚水機場すべてに回転制御を設置するとともに、集中管理センターによる水管理システムを導入。これにより、現在では5つの国営揚水機場で全面積がカバーされることとなり、効率的な水管理・水利用と管理費の軽減が図られることとなった。

食料増産に向け、昭和26年に着工した国家的プロジェクト「篠津泥炭地開発事業」により、当地域は北海道を代表する米どころとして発展を遂げたが、今や、食料生産を担うばかりでなく、泥炭、湿原、田園空間が織りなす自然豊かな農村地域として、都市住民の憩いの場、農業体験学習の楽しめる場となっている。

21創造運動の展開では、農業体験学習会の開催をはじめ、地域住民と連携した植樹活動、小学校の総合学習に対する協力、地域の開発の歴史の伝承、生態系保全の取り組みなど多岐にわたり取り組んでいる。7000haという広範囲を管理する当水土里ネットのこれらの活動に当たっては、5つの揚水機場管理運営委員会とこの下部組織となる支線管理組合が根幹となってネットワークを形成し、創造運動推進のシステムが機能している。

### Ⅲ 2 1 創造運動の実績

平成16年度に実施した2 1 創造運動の実績（複数可）

#### ◇活動名：篠津地域農業体験学習会の開催（都市と農村の交流）

##### ◇活動の内容

農業体験などを通じて、農地や農業用水等の重要性と、これらの地域資源を管理している水土里ネットの役割などを知ってもらおうと、平成12年から毎年2回篠津地域農業体験学習会を開催。普段農業にふれることのできない札幌市近郊の親子連れなどの参加を募り、春は田植え、秋は稲刈りをメインに、乗馬体験や植樹、パネル展、揚水機場や頭首工の施設見学、地場農産物等の販売など、都市住民や子供たちへの理解の促進と積極的な交流を図っている。

平成16年度は、田植え体験を5月28日、稲刈り体験を9月25日に実施し、延べ650名の参加を得ており、年々参加者が増えている。

また、リピーターの参加も促すため、田植え、稲刈りをメインに、乗馬体験や植樹、施設見学、農機具の展示、精米の実演のほか、地域の農家の協力を得て直売所を設け、農産物や花、野菜の苗の販売を行うなど毎年メニューに工夫を凝らしている。

篠津中央地区地域用水対策協議会や道開発局、道、関係市町村、近隣水土里ネット、JAなどと連携を図りながら、当水土里ネットの5揚水機場の運営委員会とそれぞれの管理組合が持ち回りで協力するなど、当水土里ネットの地域が一体となって継続的に実施しており、平成17年度で6年目を迎えている。

##### 【参加者】

- ・平成12年度 300名
- ・平成13年度 350名
- ・平成14年度 400名
- ・平成15年度 750名
- ・平成16年度 650名
- ・平成17年度 5月の田植え体験 300名

##### 【経 費】

毎年約50万円（地域用水機能増進事業30万円、自主財源20万円）

##### 【参加者募集方法】

新聞および市町村広報誌で参加呼びかけを行うほか、過去の参加者に案内を送付

##### 【農業体験学習会の開催のきっかけ】

水土里ネット北海道が平成11年に実施した、小学生を対象とした「水源探索ツアー」に当水土里ネットの役職員が協力し、子供たち等への農地・農業用水等のPRの重要性を再認識。以降、翌年から年2回、農業体験学習会を開催している。

### 【関係機関・団体との連携】

水土里ネットしのつ中央が事務局となっている篠津中央地区地域用水対策協議会を中心に、北海道開発局や道、関係市町村、近隣水土里ネット(水土里ネット新篠津)、JAなどと連携し、田植えや稲刈り体験、施設見学、植樹、パネル展などを行っているほか、乗馬体験は地域の乗馬クラブのメンバーの協力を得ている。また、農機具の展示、精米の実演、直売所での農産物や花、野菜の苗の販売では、地域の農家の協力を得て実施している。

### 【会場の拠点化】

水土里ネットの役職員や子供たちの協力を得て、これまで植樹や植栽を行い環境整備を進めてきた川南揚水機場をメイン会場に、隣接する水田(約10畝)を農家から借上げて毎年実施しており、農業体験学習会のほか、小学校の総合学習の会場にもなっている。

### 【スタッフ】

水土里ネットの役職員のほか、道開発局、道、関係市町村、近隣水土里ネット、JAの職員がスタッフとして運営しているほか、当水土里ネットの5揚水機場の運営委員会が持ち回りで組合員の協力を得て実施している。(スタッフ総勢約100名)

## ◇活動名:地域住民と連携した環境・景観保全活動(用水路沿い等への植樹、植栽)

### ◇活動の内容

地域住民(町内会や老人会)や組合員、子供たち(小学校や保育園)の協力を得て、用水路沿いにハスカップやブルーベリー、ヒメリンゴなどを植樹、植栽し、環境・景観保全に取り組んでおり、これらの活動を通じて、農地や農業用水、自然環境等の地域の資源保全の大切さなどをPRしている。篠津中央地区地域用水対策協議会等と連携を図りながら、平成15年度から実施している。

### 【平成16年度の実施状況】

- ・6月25日、川南幹線用水路 ピンゲNSTウヒの植樹に30名参加
- ・6月27日、月形幹線用水路 プラム、ハスカップの植樹に60名参加
- ・9月12日、月形幹線用水路 プラム、ハスカップ、プルーン植樹に60名参加
- ・10月5日、川南幹線用水路 ピンゲNSTウヒ、ヒメリンゴプラムの植樹に30名参加

### 【経 費】

毎年約5万円(地域用水機能増進事業5万円)

### 【地域住民等との連携】

平成15年から自治会等と連携し、地域住民の参加を得ながら、植樹活動、維持管理を行っている。現在、支線管理組合毎の維持管理計画に基づき、自治会をはじめ多様な協力を得るための協定の締結を行うための調整を進めている。

### 【樹種の選定】

実がなるなど子供たちが楽しめるもの(プラム、ハスカップ、プルーン等)や、将来は防風林(ピンゲNSTウヒ)としての役割を発揮できるものを選定して植樹している。

## ◇活動名：小学校の総合学習や社会科見学に協力(学校教育との連携)

### ◇活動の内容

#### ○小学校の総合学習「農業体験」に協力

平成16年度は、当別町立蕨岱小学校と札幌市立幌北小学校の田植え体験、稲刈り体験に協力し、農業体験を通じて、農地や農業用水等の重要性と、これらの地域資源を管理している水土里ネットの役割等を紹介した。

子供たちからは、お礼の手紙や作文が届けられている。

田植え体験は5月28日、稲刈り体験は9月24日、両校合同で実施。

#### ○小学校の社会科見学に協力

平成16年度は、新篠津村立新篠津小学校の社会科見学に協力し、子供たちを頭首工や工事現場に案内し、農業水利施設や農業用水、水土里ネットの役割等を紹介

#### 【学校教育との連携の取り組み】

水土里ネットが市町村の教育委員会に、小学校等の総合学習への協力を申し出て、平成15年から取り組んでいる。

#### 【経 費】

既存のパンフや手作りの資料で対応

## ◇活動名：篠津泥炭地開発資料館の整備計画の推進(地域の開拓の歴史の伝承)

### ◇活動の内容

篠津泥炭地開発事業によって緑豊かな穀倉地帯へと変貌した当地域の歴史を後世に伝えるとともに、同事業や泥炭地に関する文献資料等を整理し、地域の共有財産として保存、活用しようと、平成4年に、当水土里ネットが事務局となり、北海道開発局と関係市町村、関係水土里ネット(新篠津)で構成する「篠津泥炭地開発資料保存連絡委員会」を立ち上げ、泥炭地開発資料の整備と資料館の整備計画を進めている。

篠津地域泥炭地開発が始まってから半世紀が経過しており、地域における当時の開拓に携わった関係技術者等は非常に少なくなっている。このため、開拓当時を知る地域開拓者等に、当時の生活や開田における技術的な問題点、対応策、かんがい技術等について聞き取り調査を進めるとともに、収集した文献や資料、写真、映像等のデジタル化に取り組んでいる。

北海道開発局等とも連携し、今後、土地改良区事務所1階の資料室を資料館として整備し、収集整理された文献や資料、写真等を展示するなど、地域住民や子供たちの学習施設等としての活用を図るべく、手法等を検討している。

#### 【経 費】

「篠津泥炭地開発資料保存連絡委員会」の運営については特に予算計上せず、道開発局と関係市町村(新篠津村、当別町、江別市、月形町)、関係水土里ネット(水土里ネット新篠津)が連携した中で、それぞれ手弁当で対応している。

地域開拓者等からの聞き取り調査も、通常業務の中で対応し、資料についても手作りで行っている。

今後、水土里ネット事務所1階の資料館整備計画が具体化した中で、資料館の運営費について検討を進めることとしている。

## ◇活動名：泥炭地保全復元構想の検討(生態系保全への取組)

### ◇活動の内容

地域の開発により原自然の大部分が失われ、現在点在している残存原野の多くは乾燥化が進み、原植生も失われつつある。そのため、平成9年に北海道大学教授らからのアドバイスをを受けて、水土里ネットが事務局となって、22名の研究員で「北海道泥炭地研究所」を立ち上げ、未だ残る数少ない未利用泥炭地を保全し、貴重な生態系の回復を図る計画を検討している。

#### 【北海道泥炭地研究所の構成メンバー】

- ・所 長 南 部 重 雄(篠津中央土地改良区理事長)
- ・主任研究員 林 君 雄(株式会社地崎工業)
- ・ " 梅 田 安 治(北海道大学名誉教授・農村空間研究所長)
- ・ " 高 橋 英 紀(北海道水文季候研究所)
- ・ " 井 上 京(北海道大学大学院農学研究科土地改良学研究室)
- ・ " 藤 井 忠 志(財団法人北海道農業近代化技術研究センター)
- ・ " 滝 俊 二(郷土建工業株式会社)
- ・ " 竹 中 隆 司(株式会社アルファ技研)
- ・ " 菅 原 正 直(開発工建株式会社)
- ・ " 森 井 徹(開発工建株式会社)
- ・ " 数 矢 憲 一(岩見沢市)
- ・特別研究員 清 原 拓 治(北海道開発局網走開発建設部次長)
- ・ " 福 島 健 司(北海道開発局農業計画課土地改良管理室長)
- ・ " 福 島 正 人(北海道開発局札幌開発建設部岩見沢農業事務所長)
- ・ " 中 島 和 宏(北海道開発局札幌開発建設部札幌北農業事務所長)
- ・客員研究員 目 黒 敏 弘(当別町商工会)
- ・ " 美 濃 正 孝(石狩北部地区消防事務組合新篠津消防署)
- ・ " 今 邦 彦(月形町)
- ・ " 滝 沢 一 喜(株式会社ルーラルエンジニア)
- ・ " 土 谷 貴 広(株式会社アルファ技研)
- ・ " 草 野 久美恵(株式会社ズコーシャ)
- ・ " 武 井 斎(当別環境整備協同組合)
- ・事務局 脇 沢 昇(篠津中央土地改良区参事)

#### 【経 費 等】

北海道泥炭地研究所の運営費として、関係団体等から寄付金等を募り、年間約10万円の予算で活動している。

主な活動としては、年1回、研究員からの様々な情報等を提供する「泥炭地ニュース」(全32頁)を手作りで発行しているほか、必要に応じて会合を開き、情報交換を行っている。

今後は、さらなる情報交換等を行いながら活動の環を広げ、行政のバックアップも視野に入れた運動を展開していきたいと考えている。

#### ◇活動名：地域イベントへの積極的な参加

##### ◇活動の内容

関係市町村などが主催する地域のイベントに積極的に参加し、パネルで農業用水の多面的機能、農地・農業用水等の資源保全の重要性などを紹介するほか、パンフレット、ティッシュの配布、アンケートの実施など、水土里ネットの役割などを積極的にPRしている。

平成16年度は、2回実施。

- ・7月11日 当別町SUNキュウフェスティバル
- ・8月29日 新篠津村青空まつり

##### 【経 費】

毎年約5万円(地域用水機能増進事業5万円)

#### ◇活動名：農業用水を防火用水としての活用

##### ◇活動の内容

農業用水の多面的活用として、用排水路マップを消防に提供し、農業用水を防火用水として活用している。

##### 【経 費】

既存の用排水路の路線図を提供しているため、特に予算計上はしていない。

#### ◇活動名：地区内の農地情報をデジタル化(地図情報システムの確立)

##### ◇活動の内容

平成7年度より取り組んだ農地流動化支援水利用調整事業により、組合員個人別のほ場データをデジタル化した地図情報システムを確立。現在、このシステムを活用した土地改良区の賦課台帳の整理を進めているほか、今後、農地利用集積の調整など幅広く活用することとしている。

##### 【経 費】

システム整備については、農地流動化支援水利用調整事業の予算で約2900万円、その後の保守管理は自前で行っている。

##### 【個人情報の保護】

個人情報保護の関する規程の整備に向け、現在、調整を進めている。

#### ◇活動名：水土里ネット役職員、組合員等に対する意識向上への取組(内部運動の推進)

##### ◇活動の内容

21創造運動や資源保全などをテーマとしたセミナー等に、役員、職員等が積極的に参加し、運動への取組意欲の向上と意識改革を図っているほか、役員会、総代会等において、21創造運動や資源保全の取組などの共通認識の醸成を図っている。

また、組合員からの泥炭地開発の情報・資料収集や、揚水機場管理運営委員会、支線管理組合の協力を得た農業体験学習会の実施などを通じて、組合員の理解が浸透している。

## ◇活動名:その他多様な広報の展開

### ◇活動の内容

#### ○垂幕で水土里ネットをPR

水土里ネット事務所に垂幕を掲げ、「夢を耕すみどりの大地」と呼びかけて、水土里ネットの役割等をPR。

【経 費】 自主財源 5 万円

#### ○パンフ「”水”は地域の資源」の作成・配布

農業用水の多面的な役割や重要性をPRするパンフレット「”水”は地域の資源」を作成し、学校教育との連携やイベント等で広く配布している。

【経 費】 地域用水機能増進事業 3 0 万円

#### ○篠津地域ふるさとマップの作成・配布

地域の自然や農業水利施設、親水公園などの見どころや、特産品、イベント情報などを紹介したおもしろマップを作成し、イベント等で広く配布している。

【経 費】 自主財源 5 万円

#### ○アンケート調査の実施

農業・農村や農業用水等の多面的な役割などの認識度や、都市住民が農業・農村に期待することなどを把握するため、イベントや篠津地域農業体験学習会の参加者にアンケートをお願いし、今後の活動の参考としている。

【経 費】 手作り

#### ○マスコミと連携した情報提供

農業体験学習会の開催ではラジオ番組のFMアップル「北の食物研究所」で参加の呼びかけを行うほか、これらの活動を新聞社等に情報提供し、創造運動の取り組みを広く発信している。(平成12年から継続的に実施)

#### ○広報誌「水土里ネットだより」の発行

水土里ネットだよりを年2回発行し、組合員の創造運動に対する理解の浸透に努めているほか、資源保全の取組などの情報提供を行っている。



## IV 2 1 創造運動の取り組み体制

### 1 水土里ネット役員への21創造運動に対する意識

水土里ネット役員への意識が改革され、運動を積極的に推進している

水土里ネット役員への意識が徐々に変わり始めている

まだ変わっていない

チェックした項目に対する具体的内容を記載

平成12年から継続的に実施している篠津地域農業体験学習会では、水土里ネットの役員や組合員も積極的にスタッフ(手伝い)として参加して、都市住民や子どもたちとの交流を図っている。

また、農地・農業用水等の資源保全等をテーマとしたセミナーや各種会議等に積極的に参加するとともに、役員会などを通じて、地域としての資源を改めて認識するとともに、地域の資源保全の問題点や課題、自分たちの地域で何ができるか、地域住民等に対してどのような協力を求めることができるかーなどについて検討している。

このように、水土里ネット自身が「水」「土」「里」を守り育む組織としての役割を再認識するとともに、地域が期待する農業・農村の多面的機能を支える組織、地域の要請に対応した農地・農業用水等の地域資源の維持保全を積極的に担っていける組織を目指し、関係市町村はもとより関係機関・団体と連携を図りながら、役職員一丸となって創造運動等に取り組んでいる。

### 2 水土里ネット職員への21創造運動に対する意識

水土里ネット職員への意識が改革され、運動に積極的に取り組んでいる

水土里ネット職員への意識が徐々に変わり始めている

まだ変わっていない

チェックした項目に対する具体的内容を記載

参事、技師長、出納長と総務課、管理課、工務課、施設管理課からなる職員21名の事務局体制で、特に創造運動に対する企画立案等は総務課と管理課が中心となって進めている。

当水土里ネットの活動に際しては4市町村にわたり活動範囲が広いことから、関係機関・団体との連絡調整や、地域住民等への各種活動の参加呼びかけなど全職員が一丸となって対応している。

また、農地・農業用水等の資源保全等をテーマとしたセミナーや各種会議等に積極的に参加するとともに、役員と連携を図りながら、地域としての資源を改めて認識するとともに、地域の資源保全の問題点や課題、自分たちの地域で何ができるか、地域住民等に対してどのような協力を求めることができるか、常に検討している。

このように、水土里ネット自身が「水」「土」「里」を守り育む組織としての役割を再認識するとともに、地域が期待する農業・農村の多面的機能を支える組織、地域の要請に対応した農地・農業用水等の地域資源の維持保全を積極的に担っていただける組織を目指し、関係市町村はもとより関係機関・団体と連携を図りながら、役職員一丸となって創造運動等に取り組んでいる。

### 3 2 1 創造運動の担当部署について

21 創造運動を実践していくため水土里ネット内に担当部署を設けている

→ 担当部局: 企画立案 総務課、管理課 (8人)

特に担当部署は設けていないが、組織として取り組んでいる

役員が単独で行っている →  運動の後継者の育成を行っている  
 特に後継者の育成を行っていない

その他: 活動は全職員が対応

### 4 2 1 創造運動のリーダーがいる場合はその方の役職等を記載 (複数人いる場合は全て記載)

リーダーの役職等: 理事長、副理事長、参事

### 5 2 1 創造運動の水土里ネット組合員への浸透度

水土里ネット組合員に徐々に浸透している

まだ変わっていない

その他: .....

## V 2 1 創造運動の意義性

### 1 2 1 創造運動に取り組むに当たって掲げた理念

～ 2 1 創造運動を通し「水土里ネットがどうなっていくべきか」思いの丈を記述してください～

道民・国民の財産「水」「土」「里」を良好な状態で次世代へ継承するため、自己確認・自己変革の取組として、水土里ネット自身が「水」「土」「里」を守り育む組織としての役割を再認識するとともに、時代の要請に対応し、水土里ネットに期待される新たな役割・機能を担うための共通認識の醸成を図っていく。

また、農業・農村の多面的機能や農地・農業用水等の地域資源保全の重要性、水土里ネットの果たしてきた役割、これから果たしていく新たな役割・機能について、道民・国民の理解を醸成していく。

これらの運動を通じて、道民・国民が期待する農業・農村の多面的機能の発揮を支える組織、道民・国民の要請に対応した農地・農業用水等の地域資源の維持保全を積極的に担っていただける組織として発展することを目指す。

○運動を開始した時期

従来より、関係機関・団体と連携して、地域活性化に向けた取組を進めてきたが、特に、平成10年に地域用水機能増進事業がスタートし、篠津中央地区地域用水対策協議会を設置してからは、農業用水の多面的機能の発揮に向けた各種活動を積極的に推進。また、国営造成施設管理体制整備促進事業(管理体制整備型)が平成12年度にスタートしてからは、同事業等を活用しながら、創造運動の一層の推進を図ってきた。

2 この理念はどのレベルの会議等で決定されたか

- 水土里ネット総(代)会
- 水土里ネット理事会
- 水土里ネット内部

3 21創造運動に対する地域住民等の評価(複数回答可)

- 地域住民からは、水土里ネットの存在・役割が理解され上々の評価を得ている
- 21創造運動により近隣の地域へ波及的な効果もあった

具体的に:イベントに参加し、アンケート調査を行っているが、水土里ネットの知名度や農業用水等に対する認識度が年々上がってきている。また、農業体験学習会や植樹活動など参加者、協力者が増えてきており、活動の環が徐々に広がっている。

- まだ変わっていない
- その他:

※新篠津村青空まつりにおけるアンケート調査の結果(一部)

設 問	回 答	H 1 6 年	H 1 5 年	H 1 4 年
水土里ネットを知っていますか	はい	58%	55%	35%
	いいえ	42%	45%	60%
農業用水を知っていますか	はい	69%	71%	65%
	いいえ	31%	29%	35%
農業体験イベントに参加したいですか	はい	63%	60%	68%
	いいえ	37%	40%	32%

4 平成16年度の各種活動への参加者 ~Ⅲの「21創造運動の実績」について記載~

- 地域住民や児童、生徒
- 地域住民のほか市町村外からの参加者も多数
- イベントは他団体( )との共催なのでよく分からない
- 特に調べていない
- その他:

篠津地域農業体験学習会では、札幌近郊の親子連れが多数参加している。

5 持続可能な21創造運動への取り組み姿勢（無理のない着実な取り組み）（複数回答可）

○財政状況

- 自主財源 他の機関からの支援（補助事業等）  
予算書に活動費の項目立てをしている。（理事会の議題に取り上げている）  
その他：

○関係機関・関係者等との調整（合意形成）

- 関係機関もしくは関係者等と十分な調整を経たうえで取り組みを開始した  
先ず水土里ネットで取り組みをはじめ、その後関係機関もしくは関係者との調整を行った  
水土里ネット独自で取り組み、関係機関・関係者等との調整は特に行っていない。  
その他： .....

6 農業振興を含めた本来業務にかかる活動に取り組んでいますか。（複数回答可）

- はい → 土地利用調整 水利用調整 情報収集及び提供 直売所等への関与  
営農支援 { 実証栽培 土づくり 環境保全型農業の推進 }  
営農指導 その他： .....  
その他：  
いいえ

7 事業や運動などで、他に先駆けて取り組んだものはありますか。

- はい（具体的な内容を記載）  
いいえ

先駆的な取り組みの具体的な内容：

平成10年から地域用水機能増進事業にいち早く取り組み、土地改良区や市町村等が連携して地域用水環境整備計画に基づき、地域用水機能の維持・増進に取り組んでいる。具体的には、都市住民との交流や学校教育との連携などによる啓発普及活動に取り組むほか、ほ場の土壌診断、水田水質調査、施肥設計及び診断、配水・維持管理計画に基づく補完ハード事業などを進めている。

また、泥炭地開発事業により原自然の大部分が失われ、現在点在している残存原野の多くは乾燥化が進み、原植生も失われつつある。そのため、水土里ネットが事務局となって、22名の研究員で「北海道泥炭地研究所」を立ち上げ、未だ残る数少ない未利用泥炭地を保全し、貴重な生態系の回復を図る計画を検討している。

地域住民等と連携では、平成15年から自治会等の協力のもと地域住民等の参加を得た植樹活動を行っているが、現在、支線管理組合毎の維持管理計画に基づき、自治会をはじめ多様な協力を得るための協定の締結を行うための調整を進めている。

## 8 地域の歴史（先人達の偉業等）や文化などを伝えるような取り組みをしていますか。

また、水土里ネットを含め他に歴史や文化を伝える人材はいますか。

（取り組まれている場合は次の内容について記載）

### 1) 取り組み内容

篠津泥炭地開発事業によって緑豊かな穀倉地帯へと変貌した当地域の歴史を後世に伝えるとともに、同事業や泥炭地に関する文献資料等を整理し、地域の共有財産として保存、活用しようと、平成4年に、当水土里ネットが事務局となり、道開発局と関係市町村、関係水土里ネットで構成する「篠津泥炭地開発資料保存連絡委員会」を立ち上げ、泥炭地開発資料の整備と資料館の整備計画を進めている。

篠津地域泥炭地開発が始まってから半世紀が経過しており、地域における当時の開拓に携わった関係技術者等は非常に少なくなっている。このため、開拓当時を知る地域開拓者等に、泥炭地開発当時の生活や開田における技術的な問題点、対応策、かんがい技術等について聞き取り調査を進めるとともに、収集した文献や資料、写真、映像等のデジタル化に取り組んでいる。

北海道開発局等とも連携し、今後、土地改良区事務所1階の資料室を資料館として整備し、収集整理された文献や資料、写真等を展示するなど、地域住民や子供たちの学習施設等としての活用を図るべく、手法等を検討している。

### 2) 人材活用(どのような人材を活用しているか記述)

「北海道泥炭地研究所」の研究員等と連携して、泥炭地開発の文献・資料の収集、開拓当時の関係者からの情報収集等を進めている。

## VI 2 1 創造運動の継続性・発展性

### 1 IIIの「2 1 創造運動の実績」で述べた活動について、活動を始めた時期及び今後の取組予定

- ・活動名：篠津地域農業体験学習会の開催（都市と農村の交流）
- ・取組開始時期及び今後の予定：

平成12年から毎年実施し、年々参加者も増えているとともに、メニューに工夫を凝らしながらリピーターの参加にも配慮している。

今後は、地域住民はもとより札幌近郊の一般消費者に対し一層の参加呼びかけを行い、農業・農村のサポーターとして体験型から参加型のメニューを検討し、さらなる活動の環を広げていきたいと考えている。

◇活動名：地域住民と連携した環境・景観保全活動（用水路沿いの植樹、植栽）

- ・取組開始時期及び今後の予定：

組合員や地域住民等に参加を呼びかけ、平成15年から実施。このような取り組みを契機に、多様な主体が参画した農地・農業用水等の資源の適切な保全を通じ、地域社会への貢献や地域の要請に応える効果の高い取組みを誘導していきたいと考えている。

◇活動名：小学校の総合学習や社会科見学に協力（学校教育との連携）

・取組開始時期及び今後の予定：

以前は地域等の小学校の要請に応じて社会科見学等に協力していたが、近年では、農業体験学習等に積極的に「お手伝いします」と呼びかけ、学校等の要請にできるだけ対応することとしている。

また、植樹活動も子供たちの参加を呼びかけている。

◇活動名：篠津泥炭地開発資料館の整備計画の推進（地域の開拓の歴史の伝承）

・取組開始時期及び今後の予定：

篠津泥炭地開発事業によって緑豊かな穀倉地帯へと変貌した当地域の歴史を後世に伝えるとともに、同事業や泥炭地に関する文献資料等を整理し、地域の共有財産として保存、活用しようと、平成4年に、当水土里ネットが事務局となり、道開発局と関係市町村、関係水土里ネットで構成する「篠津泥炭地開発資料保存連絡委員会」を立ち上げ、泥炭地開発資料の整備と資料館の整備計画を進めている。

◇活動名：泥炭地保全復元構想の検討（生態系保全への取り組み）

・取組開始時期及び今後の予定：

泥炭地開発事業により原自然の大部分が失われ、現在点在している残存原野の多くは乾燥化が進み、原植生も失われつつあることから、平成9年に、水土里ネットが事務局となって「北海道泥炭地研究所」を立ち上げた。

現在、22名の研究員等で、海外の事例等を参考にしながら、未だ残る数少ない未利用泥炭地を保全し、貴重な生態系の回復を図る計画の検討を進めている。

◇活動名：地域イベントへの積極的な参加

・取組開始時期及び今後の予定：

平成10年の「篠津中央地区地域用対策協議会」の立ち上げを契機に、毎年、関係市町村等が主催するイベントに積極的に参加し、農業用水の地域用水としての役割や、農地・農業用水等の地域の資源の重要性などをPRしている。

今後とも継続的に参画し、一層の啓発に努めていきたいと考えている。

◇活動名：地区内の農地情報をデジタル化（地図情報システムの確立）

・取組開始時期及び今後の予定：

平成7年度より取り組んだ農地流動化支援水利用調整事業により、組合員個人別のほ場データをデジタル化した地図情報システムを確立。現在、このシステムを活用した土地改良区の賦課台帳の整理を進めているほか、今後、農地利用集積の調整など幅広く活用することとしている。

◇活動名：その他多様な広報活動

・取組開始時期及び今後の予定：

従来より継続的に取り組んでいるが、今後は特に、農地・農業用水等の資源保全に向けた地域住民等の理解を得るために、関係機関・団体等と連携を図りながら、これまで以上の活動に取り組んでいきたいと考えている。

## 2 2 1 創造運動の取り組みにあたっての工夫

～2 1 創造運動（活動）を更に発展・拡充するために取り組んだ内容について記載～

水土里ネットだけで創造運動に取り組むことは、財政的にも人的にも負担が大きい。このことから、関係市町村をはじめJAなど農業団体、また、北海道開発局、北海道と緊密な連携を図りながら、開かれた運動を展開している。

また、泥炭地保全復元構想の検討など生態系保全への取り組みでは、有識者や専門家などの協力を得ながら、幅広い議論を行いながら検討を進めている。

さらには、毎年、年間計画を樹立し、理事会、総代会等で承認を得て、計画的な運動を展開するとともに、役員をはじめ総代、組合員にも運動展開についての情報を提供し、特に、農地・農業用水等の資源保全の取り組みについての理解の浸透を図っている。

## 3 目標及び目標達成に向けた取り組み ～具体的に、又計画がきまっていれば年次計画を～

農業体験学習会は今後とも継続的に実施することとしており、今後は、地域住民はもとより札幌近郊の一般消費者に対し一層の参加呼びかけを行い、農業・農村のサポーターとして体験型から参加型のメニューを検討し、さらなる活動の環を広げていきたいと考えている。

篠津泥炭地開発資料館整備計画の推進や泥炭地保全復元構想の検討では、有識者や専門家などの協力を得ながら取り組んでおり、地域住民や子供たちが活用できる手法等を検討している。

○この目標はどのレベルの会議等で決定されたか

水土里ネット総（代）会

水土里ネット理事会

水土里ネット内部

その他：

地域用水対策協議会や国営造成施設管理体制整備推進協議会でも今後の活動計画等について協議している。

4 21 創造運動を実践するための水土里ネットを核とした活動母体がある場合

- ・組織名（団体名）：篠津中央地区地域用水対策協議会  
篠津中央地区国営造成施設管理体制整備促進事業推進協議会
- ・主な活動内容： 農業体験学習会、環境景観保全活動等

5 21 創造運動の実践により水土里ネットにもたらされたもの（複数回答可）

- 一般住民からの問い合わせ等が増えた
- 水土里ネットへの就職希望者（問い合わせ）が増えた
- 自治会等地域の各種会議・会合等の案内が増えた
- 行政機関から各種委員会等の委員の依頼、会議の案内が増えた
- 地域住民の水路の草刈り等の作業参加者が増えてきた
- 組合員の賦役の参加率が向上した
- 以前と変わっていない
- その他：
  - ・札幌市の小学校から総合学習の協力依頼が増えた。
  - ・地域住民にも「水土里ネット」の愛称が浸透してきた。
  - ・各種活動を通じて市町村や関係農業団体等との連携が一層深まった。
  - ・マスコミとのつながりができた。

**VII 21 創造運動の連携性**

1 関係機関との連携（（ ）内の1から8に○をつけてください。複数回答可）

関係機関名	連携の状況	連携の内容
・町内会等自治会	(1) 2 3 4	(5) 6 7 8
・NPO	(1) 2 (3) 4	(5) (6) 7 8
・教育機関	(1) 2 3 4	(5) 6 7 8
・マスコミ	(1) (2) 3 4	(5) 6 7 8
・農協	(1) 2 3 4	(5) 6 7 8
・市町村	(1) 2 3 4	(5) 6 7 8
・都道府県水土里ネット	(1) 2 3 4	(5) 6 7 8
・都道府県	(1) 2 3 4	(5) (6) (7) 8
・国	(1) 2 3 4	(5) (6) (7) 8
・その他（研究機関）	(1) 2 3 4	(5) (6) 7 8

◇ 連携の状況

1. 積極的に連携できた
2. 一定の協力が得られた
3. 今回は連携出来なかったが 今後は可能性がある
4. 全くない

◇ 連携の内容

5. 共催、協賛、後援
6. 活動計画樹立の助言を得る
7. 人材派遣
8. 資金援助



2 21 創造運動がマスコミに取り上げられたことがありますか（新聞、TV、ラジオ等）

ある（いつ：日本農業新聞、北海道新聞、FMラジオ、業界新聞、業界誌など多数）

①マスコミに取り上げられるためにどんな努力をしましたか。

情報提供、記事の投げ込みなどを積極的に行っている。

②その結果マスコミとのパイプは出来ましたか。

農業体験学習会では、ラジオでの参加呼びかけもできた。

資料等提供したが取り上げられなかった  
ない → 接触の方法がわからず働きかけが出来なかった  
これといった働きかけはしていない

その他： .....

3 21 創造運動（各種活動）の情報提供方法（複数回答可）

水土里ネットでホームページを開設している

都道府県水土里ネットのホームページに掲載している

定期的に情報誌を作成している

水土里ネット事務所等の掲示板に貼りだしている

特に情報発信はしていない

その他：

## VIII その他特記事項

○最後に21 創造運動の推進に当たりご意見ご要望があれば記述してください。

現在、国においては、農地・農業用水等の資源保全施策の確立に向け検討を進めているが、この施策の円滑な推進のためには、それぞれの地域で水土里ネットが核となって、その役割を果たしていかなければならない。

この施策の確立のためには、広く国民に対し、農業・農村の多面的機能に対する理解を求め、特に、食料の安定供給を確保するための農地・農業用水等の資源を適切に保全していくことの必要性を強力にPRしていくことが必要である。

当水土里ネットとしても、21創造運動に積極的な取り組みを通じて、地域住民等の理解が得られ、多様な主体が参画する資源保全活動が推進されるよう、地域における中心的な役割を担っていきたいと考えている。

日本人の主食である米づくりに必要な農業用水等の保全とともに、その維持管理団体である水土里ネットが公の管理団体として幅広く認知され、将来にわたり充実した運営基盤が図られるよう役職員一丸となって取り組んでいく所存である。

